ほほえみ紀行

久御山町町政PR誌 Vol.25 2011.3

子どもたちの今を見守る、未来を育む

p2 地域とともに夢くむ教育

p4 御牧小学校 “御牧っ子”を支える、学校と家庭と地域の強いつながり

p6 佐山小学校 心豊かな活動の積み重ねで今に、将来に、つなげる佐山小の子どもたち

p8 東角小学校 多くのまなざしに守られて育つ、東角小・児童の健やかな感性

p10 久御山中学校 地域とつながり、世界を展望する教育

p11 久御山町のめざす子ども像

p12 桃源紀行 大庄屋 山田家

地域とともに夢くむ教育

少子化や価値観の多様化など、社会の変化に伴い、子どもたちをとりまく状況も変わってきました。久御山町では、こうした変化にいち早く対応し、子どもたちの笑顔があふれ、未来に可能性と夢がふくらむ町をめざし、よりよい環境づくりにつとめています。町全体で子どもたちの成長をサポートしていきます。

久御山町の特徴を生かした、教育環境づくり

本町には現在、町立の保育所が3所と小学校附属幼稚園が3園、小学校が3校、中学校が1校、さらに府立高校が1校あります。

本町では、いきいきと学び、活動できるよう、子育て環境の充実や特色のある教育に力を注いでいます。御牧小学校では英語、佐山小学校では算数・数学、東角小学校では国語の研究を推進する指定校として学力向上をはじめ、英語指導助手（AET）の配置やコンピュータを導入した情報教育、福祉・ボランティア教育など、時代に応じた、さらには将来を見据えた教育ビジョンを展開しています。そして、指定校の取り組みで得た指導法などは、校長会や教員同士の研修により、各学校が取り入れて発展させるなど、学校間の連携をおこなっています。

また本町では、1小学校区1保育所1幼稚園という特徴を生かした幼保一体的運営やコミュニティ・スクールを推進するなど、地域とともに子どもたちが健やかに成長する教育環境づくりに、多様な角度から取り組んでいます。

トータルで成長を見守る久御山学園が今春スタート！

本町では、この春から町立のすべての保育所、幼稚園、小学校、中学校で教育方針を統一し、各校・園一所が連携を深めながら一体感が持てるように子どもたちの成長をトータルに見守ります。

現在の学校教育に求められている“生きる力”の育成は学校教育だけでおこなわれるものではなく、0歳から15歳までを見通した全教育活動のなかで育まれるものであるという理念のもとに推進しています。

公立の小中一貫教育に取り組む学校は京都府内でも増えてきていますが、保育所、幼稚園を含む一貫的教育は京都府内では初めての試みです。

本町では、幼保一体的運営やコミュニティ・スクールなどの活動をいっそう充実させ、保育所、幼稚園、小学校、中学校、さらには府立高校と連携し、子どもたちの夢の実現をめざして、力強く進めていきます。

Pick up

新しい学校のかたち『コミュニティ・スクール』

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域の住民の意見を積極的に反映し、協力しあって運営を進めていく、学校の新しいかたちです。

コミュニティ・スクールは、保護者や地域の住民からなる学校運営協議会が設置され、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などに意見を述べるなど、保護者や地域の思いを反映させることができます。また、保護者や住民がボランティアとして登録し、補習授業や学校の美化、交通安全運動などに参加し、いっしょに学校をつくっていきます。

本町では、平成20年度に御牧小学校、平成21年度に東角小学校、平成22年度に佐山小学校が国の指定を受け、御牧小学校ではすでに本格的な活動をおこなっています。また久御山中学校でも平成23年度の指定に向けて、準備を始めています。

『幼保一体的運営』で、同じスタートラインから小学校へ

保育所と幼稚園の一体化政策が進められているなか、本町ではいち早く幼保一体的運営に取り組んできました。平成15年度から東角幼稚園に宮ノ後保育所の分園を併設し、平成18年度には佐山幼稚園と佐山保育所、平成20年度には御牧幼稚園と御牧保育所が、それぞれ一体的な運営を実施しています。

本町では、保育所と幼稚園の子どもたちは同じ地域に住み、同じ小学校、中学校へと進みます。入学前の幼児期を同じ園で過ごし、同じ就学前教育を受けることで、友だち関係は広がり、豊かな心や“生きる力”を育んでいます。また保育所、幼稚園と小学校の連携が強化されることで、長期的な視点で一人ひとりの個性がより理解でき、それを伸ばす教育が可能になります。町内の就学前の児童は、同じスタートラインから小学校、中学校、高校へと出発していきます。

御牧小学校

〒613-0025 久御山町相島曽根19番地

”御牧っ子“を支える、学校と家庭と地域の強いつながり

英語推進校

町内の小学校ではいちばん児童数が少ない御牧小学校。それだけに全員仲がよく、学年を超えて遊ぶ姿が見られます。保護者の多くが卒業生ということもあり、さまざまな学校活動にも協力的です。”昔ながらの小学校“のイメージがありますが、英語推進校として取り組む国際色豊かな一面もあります。

英語を通じて知る、楽しい世界！

平成8年度に文部省（当時）から「英語推進校」として指定を受けた御牧小学校では、積極的に英語活動に取り組んでいます。単語や文法を学習するというのではなく、英語をコミュニケーション・ツールの一つととらえ、相手を理解する・自分を表現する力を育んでいます。

年に1～2回おこなわれる『イングリッシュ・アドベンチャー』は、日ごろの成果を試す絶好の機会です。観光地へ出かけ、外国人と英語で交流します。もちろん子どもたちにとっては初対面の人ばかり！それだけに英語の実力はもちろん、初対面の人とでも自信を持って話せる勇気や自主性を培うことも目標です。会話を楽しんだ外国人から電子メールやポストカードが届くこともあり、子どもたちにとって楽しみな行事の一つになっています。また校内のあちらこちらには、英訳された掲示物や世界地図、いろいろな国を紹介した手作りのポスターを掲示するなど、外国の文化や生活、それぞれの国で暮らす人たちへの興味・関心を育てています。

平成23年度から新学習指導要領が実施され、外国語活動が必修化されます。いち早く英語活動の楽しさを知る御牧小学校の子どもたちへの期待は高まっています。

外国人旅行者と交流するイングリッシュ・アドベンチャー

『私たちの学校』だからできること、学習支援ボランティア

御牧小学校では、地域の住民や保護者が学習支援ボランティアとして授業やさまざまな学校活動に協力しています。小規模校で保護者の多くが卒業生ということから、『私たちの学校』という意識が地域に浸透しており、英語や音楽、書写、家庭などの教科学習をはじめ、本の読み聞かせやクラブ活動、また地域の安全活動など幅広い協力体制ができています。

例えば音楽の授業では、自宅でエレクトーン教室を開く保護者がピアノで伴奏の手伝いをするなど、保護者が専門性を生かし、担任の先生の指導をサポートすることで、授業もスムーズに流れ、子どもたちもいきいきと学習に取り組めています。また子どもたちも、お友だちのお母さんが授業に参加することで楽しそうです。たくさんの人たちから見守られている・育てられているという安心感が、御牧小学校のなごやかな雰囲気をつくっています。

保護者が伴奏を手伝う音楽の授業

御牧の特性を生かした、地域体験プロジェクト

田や畑に囲まれた御牧小学校では、地域性を生かした”地域体験プロジェクト“を進めています。

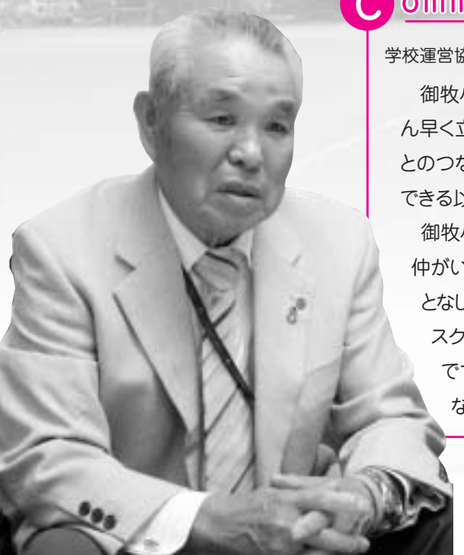
学校の近くに借りている田で、田植えから稲刈りまで経験するのもその一つです。農業を仕事とするお父さんたちが中心となり、子どもたちをサポート。昔ながらのカマを使った稲刈りは、お父さんや先生たちがケガをさせないよう、緊張しながら見守ります。あえてカマを使うのは、手で刈る感触を知ってもらうためです。子どもたちは、指を切らないよう自分で考えて慎重に行動するなど、教科書では得ることができない知識を学びます。

また、農家を訪問し、いっしょに作業する体験もおこなっています。自分たちの食べているものを、どんな人が、どういうふうに作るのか、交流しながら学びます。こうした経験が、食べものを作る人を思い、さらに地域を大切にしようとする心を育みます。

田や畑が多い校区ですが、農業を仕事とする家庭も減少し、子どもたちが農作業に触れることも少なくなっています。地域体験プロジェクトは、地域の産業を知り、地域に親しみと誇りを感じる貴重な体験です。御牧小学校だからできる取り組みを学校と地域が協力して支えあい、子どもたちに伝えます。

カマを使った農業体験

Community School



学校運営協議会 会長　田口 嗣郎さん（相島）

御牧小のコミュニティ・スクールは、町内でいちばん早く立ち上がりました。もともと学校と家庭、地域とのつながりがとても強く、コミュニティ・スクールができる以前から協力的で、活発に活動しています。

御牧小は児童数が少なく、子どもたちはやさしく、仲がいいのですが、その反面、競争意識が薄く、おとなしいといわれがちです。だからこそコミュニティ・スクールを通じて、たくましさを育てていきたいです。さまざまな活動を一緒におこない、みんなを盛り上げていきますよ。

佐山小学校

〒613-0031 久御山町佐古内屋敷56番地

心豊かな活動の積み重ねで今に、将来に、つなげる佐山小の子どもたち

算数・数学推進校

来年、創立140周年を迎える佐山小学校。長い歴史を誇る佐山小校区には、住宅も増え、いろいろな世代の人がふれあいながら、地域ぐるみで子育てを進めています。5年前に算数・数学推進校の指定を受け、算数の力を高めるために、さまざまな取り組みをおこなっています。

算数・数学推進校として算数のおもしさを伝える

「こんにちは」。元気な声が校舎に響きます。佐山小学校の中庭に掲示している『あいさつあいては　ありがとう』の言葉は、校長先生が子どもたちに身につけてほしい3つの約束で、あいさつができ、相手を思いやる心を持ち、自然にありがとうを伝えられるようになってほしいとの思いで、本年度のPTAの活動目標にもなっています。こうした意識が児童に伝わり、子どもたちは元気いっぱいにあいさつを交わします。

本町では、御牧小学校と並んで長い歴史のある佐山小学校。平成18年度に町教育委員会から、「算数・数学推進校」の指定を受け、算数の教科書の執筆者でもある愛知教育大学の志水廣教授の指導のもとで、多様な取り組みをおこなっています。なかでもユニークなのが、朝学習で続けている「さやま元気計算」です。二人一組になり、一人の子どもが計算問題を解き、もう一人は答えを聞く学習方法で、1分間に何問できるかを記録していきます。チャレンジするたびに計算できる数が増え、子どもたちは楽しみながらゲーム感覚で学習をおこなっています。

最近、算数を苦手とする児童が増加しているといわれています。佐山小学校では、算数の楽しさが感じられる学習方法で、子どもたちの興味・関心を引き出しています。

子どもの世界を広げる青少年健全育成協議会

佐山小学校の児童を見守る取り組みの中心となっているのが、佐山校区青少年健全育成協議会（佐山青少協）です。下校時の安全パトロールや農業体験、カブトムシ飼育、標語の募集など、幅広い活動を積極的に展開しています。いろいろな世代の人とふれあう地域ぐるみの子育ては、現在の社会環境では貴重といえるでしょう。さまざまな体験が子どもたちの可能性を伸ばすという思いから、保護者や先生とともに活動する佐山青少協は、佐山小学校の児童にはとても心強い存在です。

カブトムシ飼育では、佐山青少協のメンバーが各地域から集めてきた幼虫を各クラスに配布し、子どもたちが成虫まで育てます。目をキラキラ輝かせて、カブトムシをやさしく手に乗せる子どもたちは、命の大切さを学んでいます。また地域づくり・町づくりを目的とした標語を募集して表彰し、さらに看板に仕立てて、校門のフェンスに掲示しています。佐山青少協のメンバーにとって、卒業した子どもが「これ、ぼくの！」と気軽に話してくれるときが、大きな喜びと責任を感じる瞬間だそうです。

子どもたちのためを考え、おこなってきた青少協の活動の積み重ねが、今につながり、大きく広がっています。

地域の力を結集した佐山小学校コミュニティ・スクール

佐山小学校では、佐山青少協の活動のほかにも、保護者や地域の人をゲストティーチャーとして迎え、「昔の遊び」や「久御山町の歴史」などを教えてもらったり、「本の読み聞かせ」や「ストーリーテーリング」などの読書活動を広げたりする取り組みを続けています。

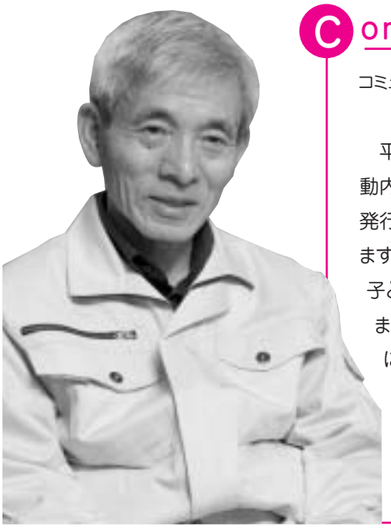
このように、地域ぐるみで子どもたちを育てようという気運があふれる佐山小校区では、平成22年度から「佐山小学校コミュニティ・スクール推進委員会」を立ち上げ、学校支援をさらに充実しようと活動を始めました。

まず、地域が一体となって子どもたちを育てるための目標を決めるため、校区の全世帯に対し、めざすべき「子ども像」「学校像」「大人像」「地域像」を答えてもらうアンケートを実施しました。そして、そのアンケートを基にこれからの方針を検討しています。

コミュニティ・スクール推進委員会は発足してまだ1年ですが、「佐山小校区の子を育てる」という熱い思いで活動を進めています。

看板になった標語

大きくなった大根を収穫する農業体験学校



Community School

コミュニティ・スクール推進委員会　会長

曽束 正義さん（下津屋）

平成23年度の学校運営協議会発足に向けて、活動内容を紹介する広報紙「フロム・コミュニティ」を発行したり、活動目標を定めるなどの準備をしています。長い間、住んでおられるご家庭も多く、地域で子どもたちを見守り、育てる意識が強い地域です。また青少年健全育成協議会が約15年前から活発に活動し、多くの団体や個人が子どもたちの成長を見守り、支援しています。コミュニティ・スクールでは、教育環境のさらなる充実に向け、これまでの支援を継続して、さらにパワーアップしていきたいと思っています。

東角小学校

〒613-0031 久御山町佐古東角12番地

多くのまなざしに守られて育つ東角小・児童の健やかな感性

国語推進校

昭和50年に佐山小学校から分離し、新設開校した東角小学校。児童数は約400人で、広い運動場には元気な子どもたちの声が響いています。国語推進校としてことばの力を重視するなど、豊かな教育を通して子どもたちの心を育みます。

学びの土台"国語力"を高める取り組み

平成18年度に町教育委員会から「国語推進校」、平成19年度に文部科学省から「国語力向上モデル事業」の指定を受けた東角小学校では、あらゆる角度から国語力の向上をめざして、さまざまな取り組みをおこなっています。『ことばの力』は、すべての学習の土台です。「自分の考えをまとめる」「意見を交換しあう」「考えをわかりやすく表現する」などを目標に、ことばの力を育んでいます。

『読書タイム』も、特徴的な活動の一つです。本を読む習慣をつけることはもちろんですが、東角小学校では給食・昼休みを終えて掃除をすませたあとに読書タイムを設けています。これは、昼休み後のにぎやかな雰囲気から勉強モードに切り替えるためです。子どもたちの気持ちが落ちつき、クラスも静かになり、集中して午後の学習に入れます。

また、児童の目に入りやすい場所に「かぞえうた」や「秋の七草」など、昔から伝わることば遊びのポスターを掲示するなど、普段から日本語のおもしろさや楽しさ、美しさにふれられる環境づくりにも努めています。

読書の習慣を支える読み聞かせボランティア

毎週火曜日の昼休み、子どもたちが和室に集まります。"ブックママ"と呼ばれる地域のボランティアの皆さんが、絵本の読み聞かせをしてくれるのです。「今日は何の本?」「クリスマスが近いから、サンタクロースのお話にしようか」。おしゃべりをしていた子どもたちも読み聞かせがはじまると、耳を澄まし、集中して、ストーリーに聞き入ります。"ブックママ"による読み聞かせがはじまったのは、5年前。昼休みが終わると、各学年の教室にも出向き、読み聞かせをおこないます。希望者だけとなると高学年はなかなか集まってくれませんが、教室に行くと、高学年の児童も興味津々で話を聞きます。

複数の図書ボランティアが他の曜日にも入られていたり、児童が校内の図書館に置いてほしい本を選ぶ選書会、読書マラソンなど、東角小学校では、本にふれる機会を数多く設けています。本を読むということは、単に物語を追いかけるだけでなく、語彙(ごい)や知識を蓄え、内容を理解する力を養います。同時に、深く感じる心を磨くことで、相手を理解する気持ちも培(つちか)われ、コミュニケーション能力が育まれます。国語力を伸ばすことは、自分を高めることでもあるのです。

ボランティア講師に絵手紙を習う児童

クラブ活動のサポートやパトロールで、児童を見守る

4年生以上が参加するクラブ活動にも、多くのボランティアの皆さんが参加しています。『ふるさとクラブ』では、大正琴や茶道、絵手紙などの町内の公民館などで活動されている人たちが講師となって、ふるさとを感じる活動をしていただいています。

絵手紙を習う日は、普通の絵画と違う独特の描き方の指導に最初は戸惑いがちな子どもたちも、どんどん仕上げていきます。「みんなのほうが上手よ」という言葉に、子どもたちも一緒に笑いあっていました。また、『ボールクラブ』では、グラウンド・ゴルフをボランティアの安全協力委員と一緒にプレイしています。安全協力委員は、グラウンド・ゴルフを教えるだけではなく、普段から子どもたちの安全を確保するため、週に3回、下校時間にあわせて午後2時から4時の間、運動場でグラウンド・ゴルフの練習をしながら子どもたちを見守ります。さらに毎朝の集団登校でもたくさんの人が見守り活動をしています。今後、安全な学校づくりには、地域の協力がますます必要となります。日常的におこなうパトロールなど保護者や地域の協力者が多ければ多いほど、犯罪の抑止力につながっていくのです。

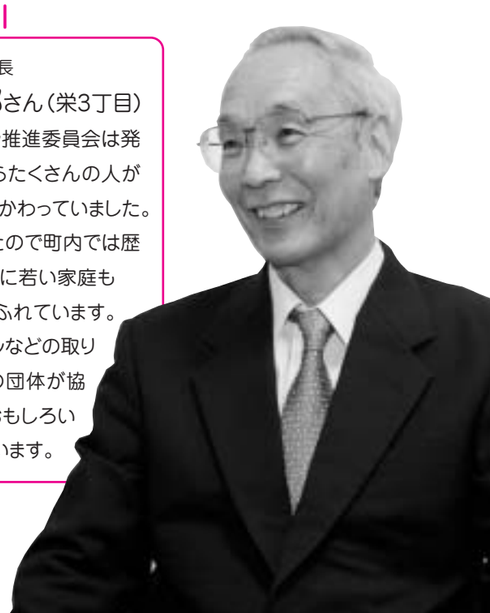
「気をつけて帰りや」。子どもたちを思いやる言葉がかけられます。あたたかな環境のなかで、東角小学校の子どもたちは、健やかに育っています。

ボランティア講師と
グラウンド・ゴルフを楽しむ児童

Community School

コミュニティ・スクール 推進委員会 会長
松本 洋四郎さん(栄3丁目)

東角小のコミュニティ・スクール推進委員会は発足してまだ2年目ですが、以前からたくさんの人がボランティアとして子どもたちとかかわっていました。佐山小学校から分離して開校したので町内では歴史も浅い小学校ですが、それだけに若い家庭も多く、新しい可能性やパワーがあふれています。クラブ活動のサポートやパトロールなどの取り組みはもちろん、保護者や地域の団体が協力しあえば、もっと子どもたちにおもしろいことができるのでは、と話しあっています。



〒613-0042 久御山町坊之池高河原7番地

地域とつながり、世界を展望する教育

成長する力を育む職場体験学習

本町で唯一の中学校である久御山中学校には、御牧小・佐山小・東角小の各校区の生徒が登校しています。それぞれの小学校で培ってきた力を中学校でよりいっそう伸ばすため、小学校と中学校の連携を深めることに努めています。

学習以外でも、福祉やボランティア活動、地域社会人講師の受け入れなど、開かれた学校づくりを進めています。その一つに、保護者が定期的におこなう花いっぱい運動や年に数回おこなう花いっぱい運動などがあり、よりよい環境づくりにも積極的に取り組んでいます。

2年生が3日間、実際に仕事を体験する『キャリアスタートウィーク』は、地域に協力いただいておこなう職場体験学習です。スーパーなどの商店や地元産業、病院など40以上の企業をはじめ、図書館や役場、小学校の給食室などの公的施設で、生徒が希望した仕事を体験します。短い日数ですが、多様な人とかかわりながら社会の仕組みや働くことの意義にふれ、就業のすばらしさや厳しさ、やりがいを実感。机上の学習では決して得ることのできない体験は、子どもたちをひと回りもふた回りも成長させます。さらに自分の進路に関心を持ち、将来を考えるきっかけづくりにもなっています。

家庭科での幼稚園実習

異文化への興味関心を高める

国際交流活動

本町が幼児期から取り組む英語活動を、中学校ではさらに力を入れ、英語学習として積極的に推進しています。各小学校同様に、久御山中学校でも英語指導助手（AET）を配置し、国際理解教育の一層の充実を図っています。なかでもオーストラリアのワーウィック・ステート・ハイスクールとの国際交流活動は、久御山中学校の大きな特色です。平成5年から交流が始まり、平成7年に姉妹校盟約を締結。毎年、交互に学校を訪問し、授業やクラブ活動に参加したり、ホームステイをおこなったりして、町の人々とふれあい、お互いの国の文化や歴史、自然、習慣、生活様式、価値観などを学び、交流を深めています。

平成22年度もワーウィックの生徒が本町を訪れ、久御山中学校生徒の家庭などにホームステイをしていろいろな体験をしました。ワーウィックの生徒だけでなく、迎え入れる久御山中学校の生徒にとっても、外国の人や言葉、文化など、多様なものに興味や関心を持つ機会になっています。

ワーウィックの生徒との交流

久御山町のめざす子ども像

特色のある教育に取り組む久御山町。より充実した教育をすすめるため、坂本町長をはじめ、教育委員さんに「久御山町のめざす子ども像」について、お話をしていただきました。

出席者（写真 右から）

西村　裕 教育委員　平野穂奈美 教育委員　坂本　信夫 町長
今村　愛子 教育委員長　坂　正義 委員長職務代理　石丸　捷隆 教育長

今村　愛子　教育委員長

子どもは親の背を見て育つと言われますが、まさに家庭環境の充実が、子どもの身体や心に表れます。心が安定すると、いろいろなことにも意欲的になります。そこから生まれた活力をどのように伸ばすかが、私たちが取り組むべき課題だと思っています。さいわい本町は、幼保小中連携が着実に進んでおり、学校と地域が一体となって子どもの生活、学力向上のために尽くしてくれています。自分の力を信じて、目的に向かって力強く進む子どもがたくさん育ってほしいです。

坂　正義　委員長職務代理

私は教育委員として活動しながら、剣道を教えていますが、ただ闘うだけではなく、相手を尊重することも指導しています。技の上達も大切ですが、豊かな人間性も身につけてほしい。毎日のなかでは、失敗もあるし、不安なことも多いでしょう。でもそれを乗り越えられる強い気持ちを持つことが、今を生きる子どもたちには必要です。私たち教育委員も、活動のなかで得た知識や地元の人の意見を聞きながら、子どもの育成に力を入れていきたいですね。

平野　穂奈美　教育委員

基本的な生活習慣は親が身に着けさせるべきだと思います。親は、子どもが元気でご飯を食べて楽しく学校に行き、友だちと仲良くしているのが一番の幸せと感じているはずです。こうした暮らしのなかで、挨拶やけじめ、社会的ルールを教えていかなくてはと思っています。これらができると、親を尊敬し、友だちを大切にする。ゆとりが生まれ、自信がつき、学習意欲にもつながっていくのではないでしょうか。

西村　裕　教育委員

本町は、子どもの成長をあたたかく見守っていると感じます。毎朝パトロールで立っておられる地域の人が、子どもたちが通り過ぎたとき、離れた場所で立っておられる仲間に子どもが向かったことを手をあげて合図され、相手も確認しておられました。住民一人ひとりが、自分たちで町を、子どもたちを支えていると自覚されているのも、久御山町の良さでしょう。この思いが強くなるほどに、中身の濃い、充実した教育が展開できると思います。

石丸　捷隆　教育長

子どもが、しっかりと学習するのが理想です。そのために教師は指導法を研修し、地域の人はコミュニティ・スクールなどさまざまなかたちでサポートし、行政は特色ある教育を進めています。本町は、保育所や幼稚園、小学校、中学校がすべて町立で、教育体制に一体感があり、この町ならではの有利な条件が揃っています。こうした環境を充分に生かして、いっそう充実した環境づくりに取り組んでいきたいです。

坂本　信夫　町長

私たちは、元気でのびのびとした心を持った子どもを育てていくという意識を持つことが必要でしょう。心の豊かさを育てることは簡単ではなく、家庭と学校、地域が結びあってこそ育まれます。家庭で基本的な生活習慣を身につけ、学校では学力を高め、地域はあたたかなまなざしで見守る。子どもだけに一方的に理想を押しつけず、保護者や学校、地域がそれぞれの立場で、やらなくてはいけないことをすれば、自然と豊かな人間性が身につくはずです。教育委員さんを中心に保護者や地域の活動に携わっておられる方々と一緒に子どもを育てていきたいですね。

桃源紀行
TOUGEN KIKOU

大庄屋 山田家（東一口）

大庄屋の格式を今に伝える

細長い家並みが続く東一口の集落の中ほどに、壮大な長屋門を構えた『山田家住宅』があります。江戸時代後期に建てられたとされる山田家は、"本家山田"と呼ばれ、巨椋池漁業権の総帥であり、御牧郷13か村をまとめた大庄屋でした。

東西27メートルにも続く長屋門と長塀は水害への備えとして、石垣の上に築かれ、壁は上部を軒廻りまで漆喰を塗った重厚な白壁で、下部を下見板張りとして与力窓や出格子を配しています。観音開きの大門は欅で作られ、また「丸に五つ引き」の家紋瓦で葺かれた屋根や棟の両端に置かれたシャチの瓦など、漁村の集落にあって武家屋敷のような豪壮な趣きをみせています。

主屋は、かつて東西に3室連なった部屋が4列ありましたが、今は縮小されています。しかし、網代や鯉の欄間、京狩野鶴沢派3代鶴沢探索の落款のある雲龍が描かれたふすま絵など、意匠を凝らした座敷が残り、大庄屋としての格式を伝えます。しかし、時代の流れや風雨による老朽化が進んでいますが、今でも昔の面影を残しています。

平成22年春、山田家住宅は国の登録有形文化財建造物に登録されました。

時が過ぎ、巨椋池も干拓されて、水田に変わり、漁村の面影はありません。けれども、かつて巨椋池の水面に映したであろう山田家住宅は、今も変わらず、静かにたたずんでいます。

主屋の玄関

鯉の欄間

ほほえみ紀行
久御山町町政PR誌　Vol.25 2011.3

発行／久御山町役場　〒613-8585　京都府久世郡久御山町島田ミスノ38番地
TEL 075(631)6111／0774(45)0001　FAX 075(632)1899
ホームページアドレス　http://www.town.kumiyama.lg.jp

編集／総務部広報行政課

再生紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています
PRINTED WITH SOY INK